

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	(1) 「協調性、創造性、知識・技術と高い職業倫理観」を育成する。 (2) 「人間性豊かなプロフェッショナルとして産業界で活躍できる力」を育成する。 (3) 「健全で持続的な社会の発展を担う力」を育成する。
(2) 現状と課題	1・2年次まで工業の基本分野について学び、3年次から専門性の高い学習を行っている。全教職員が粘り強く学習指導及び基本的生活習慣の確立のための指導に取り組むことで、生徒の学習意欲と心身の成長が見られ、落ち着いて学校生活を送っている。
(3) 重点目標	1 学習指導 ア学習指導の充実 イ学習習慣の定着 2 生徒指導 ア基本的生活習慣の確立 イ問題行動の未然防止 ウ特別活動・部活動の活性化と心身ともに健全でたくましい生徒の育成を目指す 3 進路指導 ア自己理解から主体的な進路選択 イ進路意識の育成 ウ学校及び地域との連携 4 工業教育の推進 アものづくりへの積極的な取組 イ安全管理と専門技術の推進 ウ将来のビジョン、具体的目標を持たせる工夫
(4) 結果の公表	学校ホームページで公表する。

学校整理番号	50
学校名	青森県立青森工業高等学校
定時制課程	
自己評価実施日	令和 6年 2月 8日 (木)
学校関係者評価実施日	令和 6年 2月 15日 (木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員5名、全日制PTA2学年部会長、全日制PTA3学年部会長、校長、全日制教頭、定時制教頭、事務長、全日制教務主任、定時制教務主任、教務部事務局員

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	学習指導 ア学習指導の充実 イ学習習慣の定着	・一人ひとりの学習の過程や成果を把握しながら、わかる授業を展開し未修得者を出さない。 ・主体的・対話的で深い学びを実現する魅力ある授業を展開し、学習意欲の向上を図る。 ・ICTを活用した授業改善を実践するために、研究授業を実施し、教員相互のスキル向上を図る。 ・各教科等による学習課題を通して、家庭学習の習慣化を図り、基礎学力を向上させる。	・教科情報交換会等により教員間の情報共有を図り、各教科指導において個々に応じた指導につなげることで、全科目で未修得者は出なかった。 ・授業でタブレット端末を活用することで、視覚を通じた授業や調べ学習を展開することができ、生徒の興味・関心、学習意欲の向上につながった。 ・教員の校内研修を実施し、校務及び授業におけるICT活用スキルの向上を図った。 ・学習課題を生徒へ電子データで共有または配付することにより、家庭での復習につながり、苦手意識のある科目にも粘り強く取り組む姿勢が見られた。	A	・基礎学力の向上を目指しつつ、優秀な生徒には更に充実した学習指導をお願いする。 ・学力差が大きいのであれば習熟度別の指導等を検討して欲しい。	今年度で閉課程となるため特になし
2	生徒指導 ア基本的生活習慣の確立 イ問題行動の未然防止 ウ特別活動・部活動の活性化と心身ともに健全でたくましい生徒の育成を目指す	・登下校時の挨拶指導や来客者への挨拶・会釈の励行等を通して、場面に応じたさわやかな挨拶ができるようになる。 ・スマートフォン利用のマナーについて指導を行い、適切な利用ができるようにする。 ・生徒観察やいじめに関するアンケート等を活用。 ・生徒会活動への積極的な参加など、多様な活動を通して人間力の向上を図る。	・教員間の連携により、年間を通して生徒との健全なコミュニケーションを図ることができた。また、日々の指導により、登下校時や職員室への入退時、来客者への挨拶は非常に良好であった。 ・校内におけるスマートフォンの使用に関するルールについても徹底して守られていた。 ・各学期末にいじめアンケートを実施したことで、生徒の実態を把握することができ、特に大きな問題等はなかった。 ・生徒会活動においては、生徒数が少ないながらも、ホールムール担任や担当分掌の工夫により概ね計画通り実施することができた。	A	・学校からの情報発信をより充実させながら家庭との連携を深め、問題行動などの未然防止につなげて欲しい。	今年度で閉課程となるため特になし
3	進路指導 ア自己理解から主体的な進路選択 イ進路意識の育成 ウ学校及び地域との連携	・外部講師を活用して、自己の能力や適性を理解させる。 ・企業見学を通じ、職業観・勤労観及び主体的に進路を選択する能力や態度と社会人・職業人としての心構えを育成する。 ・学年、学科、教科及び地域との連携を密にして、4年間を見通した体系的なキャリア教育の充実を図る。 ・「進路の手引き」や「合否データ集」等を有効活用した進路希望別指導の充実と学年、学科及び保護者への適切な情報提供と連携を図る。	・「ジョブカフェあおもり」による指導を2度実施した。生徒の取り組み姿勢も良く、自己理解や職業適正の認識につながった。 ・生徒数が少ないこともあり、日頃からきめ細かな進路指導と生徒及び保護者への適切な情報提供を行うことで、生徒が早期に進路目標を決めることができた。また、応募前企業見学を実施したことで、生徒本人が納得して就職試験を受け、内定を得ることができた。	A	・学年の早い段階から企業と連携を図り県内定着促進につなげて欲しい。 ・卒業後の追跡調査を行い、卒業後の進路支援（Uターン者）等を検討してみたらどうか。	今年度で閉課程となるため特になし
4	工業教育の推進 アものづくりへの積極的な取組 イ安全管理と専門技術の推進 ウ将来のビジョン、具体的目標を持たせる工夫	・生徒一人ひとりと親身向き合い、ものづくり活動を通して最後まであきらめない精神の育成と生産に関わる技術や技能の習得だけでなく、課題解決能力や協働的行動能力を育成する。 ・安全管理を配慮したもののづくり教育の実現と工業技術の進展に合わせた、職員の研修を積極的に推進する。 ・資格取得講習の実施、各種発表会参加への支援、専門技術の魅力紹介に努める。	・課題研究や「あおもり創造学」での取組の中で、技術・技能及び課題解決能力の向上を図るための指導を実践した。生徒は自ら意欲的に学習に取組、目標に向かって努力する力が身に付いてきた。 ・安全管理に配慮したもののづくり教育を実現するため、日々の施設・設備点検等を行うとともに、実習室内の整理整頓・清掃を徹底して行った。 ・資格取得のための指導を実施し、今年度は2名の生徒が「初級CAD検定」を受検し合格した。	A	・基礎学力の低下に伴い、資格取得指導にも影響が考えられるが、生徒の自信につながるよう継続して指導をして欲しい。	今年度で閉課程となるため特になし
(11) 総括	学校評価アンケートでは多くの項目において良い結果となった。これは生徒数が少ないがゆえのきめ細かで粘り強い指導と学校と家庭が上手く連携することができた結果である。学校行事においても全教職員が参加することで充実した内容となり、生徒にとって良い経験になったと考える。					